

文化情報誌

たわわ

WINTER
No.89

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

「囲碁のまちひらつか」を支える熱いハート



平塚の囲碁教室 僕たちがお手伝いしています

「囲碁のまちひらつか」というフレーズを聞いたことがありますか？昭和の囲碁界に新しい棋風で旋風を巻き起こした偉大な棋士木谷實九段（※1）が、かつて平塚の地に居を構え多くの優秀な弟子を育てました。その功績を讃えて、平塚市では平成8年度から「囲碁によるまちづくり」に力を注いできました。それから17年、平塚の囲碁文化を支える次代の若者たちが活躍しています。

「囲碁のまちひらつか」の様々な事業が始まった時、平塚市で囲碁の素晴らしさを普及したいと尽力されたのが、木谷九段の門下生である故柴田寛二三段（※2）でした。子どもから大人まで柴田先生に囲碁を教わった生徒は1000人以上にのぼり、その精力的な活動は7年前に亡くなるまで続けられました。柴田先生の想いを受け継いだ教え子たちは、それぞれにできる形で囲碁教室に貢献しようと積極的に指導助手などを担っています。

木谷九段、柴田先生から今活躍する多くの囲碁愛好者たちへと、その後進の指導に全身全霊取り組む姿勢は着実に受け継がれています。何かを教え、育てる精神の連鎖こそ、長年この事業に取り組んできた成果といえるかもしれません。

現在囲碁教室で指導に携わる柴田先生の教え子のうち、特に若い5名の方に話をお聞きしました。

●坂手 建太郎さん（27）

6歳の時に祖父に連れられ囲碁を習い始めました。囲碁の魅力は、知らない人、年齢が大きく離れた人、誰とでも打てることです。平塚市では囲碁を普及する環境がとても整っています。子どもたちはいろいろなサポートの上に囲碁教室が成り立っていること、とても恵まれていることに今は気づかないかもしれない。でもいつかそれを理解して、その子たちがまた次世代のために貢献してくれるようになったら理想的です。



坂手 建太郎さん
（向かって左）

福田 諒さん
（向かって右）

●福田 諒さん（22）

囲碁はその面白さを知ると、不思議な中毒性があります。それに、楽しみながら礼儀や想像力が養えるし、勝負なので根気や精神力も自然に育つなど、いいこともたくさんあります。囲碁は、それを通じて子どもたちが礼節をわきまえた立派な大人になれる貴重なものだと思います。

柴田先生はプライベートではよく遊び、よくお酒も飲み、いろんなことを楽しむのが好きだった人。囲碁も、人生の大事なことも教えてくれた師と尊敬しています。

※1 木谷實

昭和8年に呉清源と新布石法を発表、実践し囲碁界に大きな変革をもたらしました。平塚市桃浜町の自宅を木谷道場として内弟子をとり多くの棋士を育て、タイトルを争うトップ棋士から普及に専念する地方棋士まで、木谷一門は現代の碁界を支える支柱となっています。昭和50年12月19日逝去。平成22年7月に囲碁殿堂入り。

●宮本 浩平さん（22）

6歳で囲碁を始めました。平塚市民センターの「夏休みちびっこ囲碁入門教室」で柴田先生と出会って以来続けています。囲碁以外の習い事は面倒になってしまうこともあったんですが、



囲碁は不思議と一度も辞めたいと思わなかったですね。とにかく囲碁が好きです。自分が指導するときに気を付けていることは、子どもたちそれぞれの性格や棋力に合わせて指導してあげたいということです。自分がそうだったので、とにかく囲碁を好きになってほしいと願って接しています。

●森田 泰文さん（28）

柴田先生はいつも、ハンデはくれても対局ではまったく手加減をしない人でした。50目や100目負けてしまうこともありましたが。先生は勝負には手を抜かず、その上で打ち方を指導してくれました。

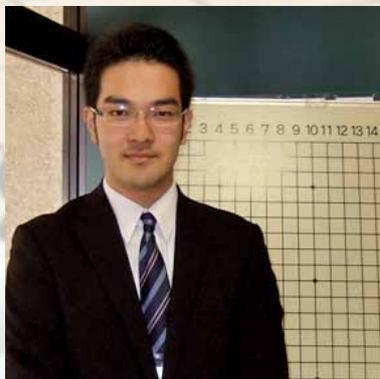
囲碁教室にとって、自分がいることで人が安心してくれるような存在になりたいと思っています。動じず、プレす、悩まずに構えていられる存在になりたいです。ボランティアとか、囲碁指導をしています、という気負いはまったくないんです。囲碁教室へ来て子どもたちと関わるのはもう生活の一部です。今後もそうあり続けたいと思っています。



●平田 泰之さん（23）

囲碁は「手談」ともいわれるとおり、その面白さは一手一手が表すコミュニケーション、駆け引きの奥深さにあります。自分の考え方に、囲碁は影響を与えている気がします。

中学生の頃の課題で、職業についてインタビューするというものがあったんです。プロ棋士は珍しいと思い、教室でお世話になっていた柴田先生にお願いしました。子ども相手にも、とてもまじめに棋士像を語ってくれました。柴田先生に教わった人たちには皆共通のDNAみたいなものがあります。囲碁教室に関わりながら、柴田先生に恩返ししていきたいのだと思います。



※2 柴田寛二

木谷實門下生。現（公財）平塚市まちづくり財団が実施する各種囲碁大会の審判長や囲碁教室の講師を長年務めるなど、本市が囲碁普及に取り組んだ当初から献身的な協力を惜まず、「囲碁のまちひらつか」の立役者でした。平成18年5月1日逝去され、日本棋院から追悼三段が贈られました。

～平塚市文化振興基金活用事業～

♪ 学校に音楽家がやってきました♪

平塚市内の小学校に音楽家たちがやってくる「学校アウトリーチ」公演の時期が、今年もやってきました。平塚市では、文化振興のために寄付された「平塚市文化振興基金」の活用事業の一つとして、平成23年度からアウトリーチを始めました。子どもたちにも先生にも大好評で、3年目となる今年度は9校で実施しました。

今年の音楽家は、ヴァイオリン、ピアノ、ボサノヴァピアノ、ピアノ連弾、ブラスバンドと様々な顔ぶれで、どれも聴く人を夢中にさせました。今年初めて平塚の小学校に来てくれた音楽家は3組です。

ブラスバンドのBBBB(ブラックボトムブラスバンド)は、見たことのない楽器と楽しいリズムで1時間があっという間。時間外も音合わせをしている様子を聴きたい子どもたちで音楽室の周りにはあふれかえりました。ピアニストの中川賢一さんは、調律師さん立会いの下にピアノを大解剖する大がかりでドラマチックな手法のアウトリーチ。ピアノの仕組みを間近に見られたり、鳴り響く美しいピアノの音色に耳を傾けたり、大人も子どもも大興奮でした。ボサノヴァピアノはたわわ85号でおなじみ、平塚出身の今井亮太郎さんです。陽気で楽しい音楽で、母校の音楽室をダンスホールに変えてしまいました。

アウトリーチは音楽の楽しさを伝えることはもちろん、子どもたちが、自分がもっている無限の可能性に気づききっかけになることもあります。素晴らしい演奏、演奏家の話を聴いて「僕もサッカーをがんばってプロを目指します!」といった感想を持つ子もいました。平塚市の子どもたちの心に、たくさんの夢が生まれていることを願います。



心と心のつながりを

今井さつきさん(インタナショナル・ナパサ韓国語キャスター)

今井さつきさんは、昨年からインタナショナル・ナパサで韓国語キャスターを務めています。多文化共生ひらつか情報局という団体と平塚市が協働して発信しているFM 湘南ナパサの情報番組で、平塚で暮らす外国人のために、現在6か国語で情報を発信しています。今井さんは結婚を機に来日し、20年以上平塚で暮らしていますが、その毎日言葉、子育て、しつけなどたくさんの戸惑いの連続でした。

今井さんは現在のようにキャスターとして活躍する以前から、長年に渡り平塚市国際交流協会の活動に参加してきました。イベントで自国の屋台を出したり、交流会に出たりすることで、苦労しながらも少しずつ日本での暮らしになじんでいくことができました。平塚市国際交流協会は、日本語教室をはじめ、各国の人が参加できる催し物の開催、平

塚を訪れた外国人のためのホームステイの受け入れなど多様な活動をしています。この協会の活動のおかげで平塚の人とのつながりができ、今の自分があると今井さんは言います。

日本での暮らしで一番悩んだのは、感情を理解し合うことの難しさでした。日本人特有の「本音と建前」は、今でも今井さんにとって戸惑うことの一つだそうです。日本人はあまりはっきり感情を伝え合わないの、心を開いて話をするに壁を感じることがあると言います。

今井さんには将来の夢があるそうです。「心のつながりを感じながら本音で自由に話ができる関係。日本で暮らす外国人たちにはそういうものが持てず寂しさを抱えている人がたくさんいます。いつか自分がそんな人たちの相談相手になれたらと思っています。」

「史跡の風景」 第8回

砂丘の集落 中原上宿遺跡群



中原上宿遺跡群の上を通る県道

平塚を中心として放射状に広がる道路網は湘南地区と県央地区を結ぶ大動脈です。そのひとつ、平塚市と伊勢原市を結ぶ県道平塚伊勢原線の中原地区での新道建設にあたり、昭和53年（1978）8月から翌年の6月にかけて大規模な発掘調査が実施されました。大松寺前から渋田川に至る道路予定地に設定された発掘調査区は延長700mを超え、南から北へ上宿遺跡、厚木道遺跡、山王脇遺跡、大縄橋遺跡の4遺跡を通っています。発掘調査の成果は「中原上宿遺跡群」としてまとめられました。

調査では弥生時代から平安時代の竪穴住居址が87軒発見され、この地に継続的に集落が営まれていたことがわかりました。とくに奈良・平安時代の出土遺物には、役所の官舎を意味する「曹司」と墨書された土器が出土しており、当時四之宮地区を中心に展開していた相模国府の西側に隣接する集落として、公的な役割を担っていたものと考えられます。



遺跡の解説碑

この新道を見通してみると、道路自体は直線的なのですが上下に大きくうねっているのがわかります。これは、東西方向の砂州・砂丘が幾重にも並ぶ市街地を南北に貫いて道路が作られているためです。低地には周囲の水が集まって流れを作ります。発掘調査にあたり南部の調査区ではこうした流れの一つ「谷川」を横切り、中部の調査区では日枝神社が立地する砂州・砂丘の微高地を探り、そして北部で渋田川左岸の自然堤防由来の微高地に達するという具合に、地形が変化する場所



中原上宿遺跡公園

を連続して記録することができましたので、凹地から微高地にかけての土地利用の変化を見出すことができました。この結果、谷川の南北に位置する低地は主に水利や農業生産の場として利用され、日当たりが良く水はけの良い微高地には集落が営まれるという傾向を知ることができたのです。

現在「遺跡公園前」というバス停がありますが、公園はバス停から50mほど北、中原二丁目北交差点の北西側の歩道上に整備されています。竪穴住居址や井戸など検出した遺構のモデルが歩道面に表示され、説明板や住居の模型も置かれています。平塚のまちの成り立ちを知る重要な遺跡群ですから、本来ですと全域を保存して歴史公園として後世に伝えたいところですが、地域の暮らしにとって必要な道路を作らないわけにはいきません。歴史遺産と現在の生活をどのように共存させていくか、問いかげられる場所でもあります。



弥生時代の竪穴住居模型



暗渠になった谷川を横切る

平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金は子どもたちの心を豊かにする文化事業に活用されています。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。

(電話 0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

H25.11月からH26.1月(敬称略)

- 平塚市ビルメンテナンス業共同組合 (H25.11.27)
- 竹遊会 (H25.12.25)

木谷實★星のプラザ

「木谷実・星のプラザ」では木谷実九段の功績を讃えて、木谷九段にゆかりの展示物を掲示したコーナーや、多くの方に囲碁に親しんでいただくためのコーナー等を設けています。また、柴田寛二三段ゆかりの展示コーナーもあります。平塚市民センターの大ホール入り口側に併設されていますので、ぜひ御来場ください。(2面に関連記事)

